

ベトナム、ダラット大学およびダラット Yersin 大学における日本語調査報告

野平宗弘

訪問先：ダラット Yersin 大学

調査日時：2017 年 2 月 16 日

調査対象機関・学科・個人名：グエン・ティ・ジエム・ハー先生（外交及び国際協力副部長、日本語講師）

訪問目的：ダラット Yersin 大学における日本語教育の調査

調査方法：項目に従ったインタビュー

調査結果：

ダラット Yersin 大学は、2004 年に創設された私立大学である。（Yersin は、ダラット開発のきっかけを作ったフランス人医師の名で、日本語表記だと「イエルサン」というのが近い表記だと思うが、今回お会いしたジエム・ハー先生は「イエルシン」に近い発音をしていた。）

日本語学科はないが、外国語学部英語専攻の学生（総学生数：100 名）の取得すべき必修の第二外国語として、日本語教育が行われている。N4 レベルの日本語教育である。

その他、看護、建築、生物環境学部の学生の学ぶ第二外国語としてもクラスが設けられている。

N4 レベルの日本語教育である。優秀な学生のための無償のクラスで、一般社団法人汎アジア人材育成センターの援助、支援で行われている。

さらに、外国語学部の優秀な学生のために、N3 レベルの日本語を無料で学ぶことができる特別日本語クラスが設けられている。このクラスは、国際高等学術研究所の援助、支援で開講されている。

教員は、ベトナム人のジエム・ハー先生と、日本人の教員が一人である。ジエム・ハー先生は事務職も兼任されていた。日本人の先生も大学の専任ではなく、ダラットで自分の会社を持ちながら、ボランティアに近いかたちで、教えに来てくれている先生であった。

日本語を学ぶことによって、学生たちは、日本での研修や日本での就職、在ベトナム日本企業での就職を目指す。

今回お会いしたジエム・ハー先生は、日本での留学経験もあり、非常に流暢な日本語を話す先

生であったものの、ベトナム人の日本語教員は先生一人だけで、また日本語ネイティブも一人のみで、教員人材の不足が見られた。

今後、政府レベルでの日本語教育に対する支援が望まれるところである。



日本語調査時の様子。ジェムハー先生と。



大学の名前の由来となっている Yersin 像の前で



日本語教師による、英語学科の学生に対する日本語の授業風景。

調査日時：2017 年 2 月 17 日

調査対象機関・学科・個人名： グエン・カオ・ルエン先生（国際学部学部長）

訪問目的：ダラット大学における日本語教育の調査

調査方法：項目に従ったインタビュー

調査結果：

ダラット大学は、ベトナムが南北に分断されていた 1957 年に創設された歴史のある大学である。日本語教育は、2007 年に創設された、国際学部日本語学科にて行われている。学生は総勢 300 名。ベトナム人教員は、5 名である。日本人の教員は一人いたが、調査実施日時点では、任期を終えて一ヶ月前に帰国したところで、新しい教員を探しているところであった。事前の調査で、2009 年時点では、提携大学である日本の岡山大学から日本語教師（助教）の先生が派遣されていたが、現在では日本の大学からの教師の派遣は行われておらず、日本の日本語専門学校の教員が派遣されてくるということであった。

日本語学科は創設後まだ 10 年の新しい学科であるため、教員の経験が浅く、ベトナム人の日本語教員の人材も不足しているということであった。ちなみに、現在のベトナム人日本語教員のうち 4 人は、グエン・カオ・ルエン先生の教え子たちであった。

日系企業はベトナムの地方都市にも進出しているものの、大学内に日本人留学生がいないため、日本人との交流の機会が少なく、学習した日本語を話せるチャンスも限定されていることも問題であるという。

対照的に、同じ学部でも韓国語学科の場合、韓国政府、韓国企業の協力で、韓国語センターのオフィスが学部内には設置されており、地方の大学であっても、このようなサポートがあるのには驚かされた。



国際学部の事務室で、ルエン先生と。

今回調査した、ダラット Yersin 大学、ダラット大学いずれにもあてはまることだが、ベトナムの地方での日本語教育は、学生の実務、就職のためという目標に向けて熱心に行われていることが分かった。その目標を達成するためには、日本の政府関係機関が給料を支払って日本人の日本語教師を派遣するという、国家規模のサポート体制も、今後拡充させていく必要があると思った。そして、そのような教育に対する日本の援助を背景に、将来的には、地方であっても、本格的に日本語研究や日本研究を行える研究教育体制が整っていくことも期待したい。